

## 西宮つとがわY M C A 保育園 12月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、  
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」  
＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節＞

今年もあと少し。昔の暦では師走というとおり、保育園の先生は年内にしておきたいこと、次年度に向けての歩み、そして何より幼児の子どもとおうちの方々に祝うクリスマス礼拝の準備に向けて大わらわの毎日を過ごしています。

クリスマスから数えて4週前の礼拝の日（保育園ですとクリスマス礼拝の日から数えて4週前の月曜の礼拝からとしています）、実際はクリスマスの日から遡って4週前の日曜日、11月30日に一番近い日曜日）からは「アドヴェント」といってクリスマスすなわちイエス・キリストの降誕を待ちわび祈りを守る時として日本では「待降節」とも言われています。実際の語源はラテン語でアド（～の方に）とベニオー（来る、達する）が合わさった言葉であり「到来」「到着」という意味になります。保育園でもクリスマス礼拝ではゆり組はイエス降誕劇を披露するために、また幼児のグループでも歌や表現をおうちの方々に披露するために11月から取り組みクリスマス礼拝の準備をしています。アドヴェントとはイエスの降誕を待ちわびるというよりも、むしろ来る日を迎える準備をする、というのが本来の意味になります。ゆり組が降誕劇を披露しますが、劇中でもイエスが生まれる日を迎える準備のため、いろいろな人がお祝いをしに駆けつけてくる様子が描かれています。異邦人と紹介される3人の博士も星のお告げを聞いて遙か遠くからお祝いの品をもってイエスに会いに来ます。

キリスト教の祈りとはただただ祈れば救いがある、ようなものではなく、信仰と祈りの中で示される方向に自らが歩みながら「備える」ことが求められていると常々感じます。クリスマスを楽しめる日として単に待ちわびるのではなく、その日のため、おうちの方とも喜び合える日になるように準備しながら待つという姿勢はそのことを体現しています。

子どもたちには、おうちの人に「本当のクリスマス」を伝えよう、といってその日を迎えます。備え、待ちわび、ともに喜ぶ、そんな体験ができるよう、そしてその体験が大きな成長の糧になるように歩んでまいります。

12月の聖句 「 学者たちはその星を見て喜びにあふれた 」  
＜マタイ 2章10節＞

12月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* クリスマスを楽しみに待つ</li> <li>* 保育者や友だちと一緒にクリスマスを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* クリスマスを待つ中で神様の深い愛を感じあう</li> <li>* 心を合わせて表現することを喜ぶ</li> </ul>
讃美歌	かいはおけにすやすやと、 カリプソキャロル	